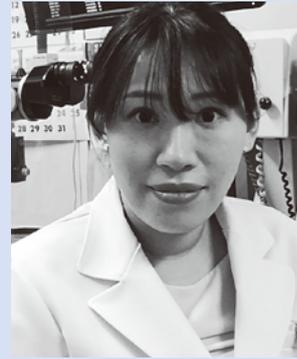


私のカルテ

No. 3 8 6

おうはん
加齢黄斑変性津島市民病院
眼科副部長兼視能訓練士室長
浅井景子

加齢黄斑変性は、加齢によって網膜というカメラのフィルムの働きをする膜の中心部分である黄斑に障害が生じ、視力が低下したり、中心が暗く見えたり、ものが歪んで見える症状が出たりする病気です。

日本における社会的失明原因の第4位、欧米では第1位となっている病気で、現在、日本人の50歳以上の約100人に1人がこの病気を持っていると言われています。

【分類】

加齢黄斑変性は大きく分けると「^{しんしゅつ}滲出型」と「萎縮型」の2つの種類があります。「萎縮型」は、網膜の下にある網膜色素上皮という膜が徐々に萎縮していくことで網膜が障害され、視力が徐々に低下していく病気です。「滲出型」は、脈絡膜新生血管という異常な血管が、脈絡膜から網膜色素上皮の下あるいは網膜と網膜色素上皮の間に侵入して網膜が障害される病気です。異常な血管から組織へ血液の成分が漏出することで網膜が腫れたり（網膜浮腫）、網膜の下に液体が溜まったりします（網膜下液）。また、血管が破れて網膜の中や網膜の下に出血を起こすこともあります。そのことによって網膜が障害され、見え方に異常が出ます。「滲出型」は大きく3つの型に分けられ、通常の脈絡膜新生血管から発症する「典型加齢黄斑変性」以外の特殊型として「ポリープ状脈絡膜血管症」と「網膜血管腫状増殖」の2つがあります。

【症状】

変視症 網膜の中や網膜の下に液体が溜まると網膜がゆがむため、ものがゆがんで見えます。周辺部は障害されていないので、中心部はゆがんで見えますが周辺部は正常に見えます。

視力低下、中心暗点 黄斑部の網膜が障害されると、真ん中が見えなくなり（中心暗点）、視力が低下します。通常、視力低下は徐々に進行し、治療をしなければ多くの患者さんで視力が0.1以下になります。網膜下に大きな出血が起こると突然、著しい視力低下が起こることがあります。萎縮型より滲出型のほうが進行が早く、視力低下も重症なことが多いです。

色覚異常 症状が進むと色が分からなくなってきました。

【検査】

視力検査 他の目の病気と同様に重要な検査です。加齢黄斑変性では視力低下が起こります。

アムスラー検査 片目ずつで方眼紙のような図を見てもらい、ゆがみの場所や程度を調べる検査です。

眼底検査 眼科医が網膜の状態を詳しく観察する検査です。出血などが分かります。記録のために眼底カメラで眼底写真を撮影することがあります。

造影検査 静脈から造影剤を注入して新生血管などの状態を詳しく調べる検査です。フルオレセイン造影検査とインドシアニングリーン造影検査の2種類の検査があります。

光干渉断層計(OCT) 網膜の断面を連続して撮ることで、網膜や新生血管などの状態を立体的に把握することができます。短時間で繰り返し出来、患者さんに負担が少ない検査です。

【治療】

残念ながら、「萎縮型」の加齢黄斑変性には現在のところ治療法がありませんが、「滲出型」の加齢黄斑変性にはいくつかの治療法があります。治療の目的は脈絡膜新生血管の拡大を抑え退縮させ、視力を維持することです。治療により視力が良くなることもあります、正常になることはほとんどありません。また、治療を中断すると再発することがあり、治療は生涯にわたって継続的に必要になることもあります。

薬物治療 脈絡膜新生血管の発生には血管内皮増殖因子(VEGF)が関係していると考えられており、VEGFを阻害することにより脈絡膜新生血管を退縮させる治療法です。現在認可されているVEGF阻害薬にはマクジェン®、ルセンチイス®、アイリーア®という3種類の薬があり、いずれも目の中(硝子体腔)に最低4週以上の間隔を空けて注射します。光線力学的療法と組み合わせて治療を行うことがあります。

光線力学的療法(PDT) ビスタイン®という光感受性物質を点滴し、その後に非常に弱い出力の専用のレーザーを病変に照射する治療法です。治療後48時間以内に強い光に当たると光過敏症などの合併症が起こることがあるので治療後は遮光が必要です。治療のためには専用のレーザー装置が必要であり、治療はPDT認定医が行う必要があります。

レーザー網膜光凝固 脈絡膜新生血管が黄斑の中心から離れた場所にある場合にのみ、強い出力のレーザー光線で病変を凝固し、破壊することがあります。

手術 脈絡膜新生血管を抜去したり、黄斑を移動させる手術がありますが、最近はほとんど行われなくなっています。

【予防】

禁煙 喫煙している人は加齢黄斑変性になる危険性が高いことが分かっています。

サプリメント ビタミンC、ビタミンE、βカロチン、亜鉛などを含んだサプリメントを飲むと加齢黄斑変性の発症が少なくなることが分かっています。

食事 緑黄色野菜はサプリメントと同様に加齢黄斑変性の発症を抑えると考えられています。肉中心の食事より、魚中心の食事のほうがよいようです。

名古屋大学医学部附属病院での加齢黄斑変性に対する注射件数は全国2位となっており、当院では大学病院と連携して加齢黄斑変性の治療を行っています。また、当院での注射治療は外来で行うことが可能です。気になることがあれば是非お問い合わせください。